

『袖ですか。』

『イヤ。』

『金巾ですか。』

『いや。』

『何だすね。』

『草紙や。』

『草紙……。ウワー。オイ皆見い。紙の羽織着て来やはつた。何ぢやガサ／＼音がすると思ふてんや紋はどない仕ておまんね。』

『切り抜いて貼たアるのや』

『へー。羽織の紐が鳥渡變ておますなア。』

『下駄の鼻緒や。』

『ア、鼻緒ですか……。帽子は何だすね。』

『箆に紙張つて被つてるね。』

『何でも紙で遣きはるのやなア。』

『ヤー。失敬ッ。』

『屹驚したがナ。新公や無いかい。夫婦の中に着物が一枚しか無い云ふて泣き言云ふたりして。何と立派な洋服着てるや無いかいな。』

『着物が一枚より無い依て俺いが着たら婢が裸や。仕様が無いさかい斯んな風態してるね。』

『何處で借て来たんや。キツチリ身に合ふてるが。』

『洋服に見えるやろ。』

『ア、又彼様や。洋服と違ふのかいな。』

『裸身に墨塗つたアるね。』

『ヒヤア。酷い事遣て来よつたなア。釦は何や。』

『胡粉で書いたアる。』

『オイ道で汗かきなや。洋服が流れて来たりしたら難儀やで。帽子が釜で、洋杖が火吹竹か。炊事場の化物見たいな風態して来よつたナ。』

『誰方も大きに。』

『大きに遅ふなりました。』

『誰方も大きに……。』

『イヨウ来た／＼。矢つ張り女連中は風態をチャンとすると綺麗なナ。お竹はん好え風態してるねナ』